

教授  
尾上 均

## ■ 学歴

---

1. 1989年 大阪大学大学院医学研究科単位取得退学

## ■ 学位

---

1. 博士（医学）

## ■ 研究分野

---

1. 生化学
2. 分子生物学
3. 細胞生物学

## ■ 研究キーワード

---

1. カルシウムイオン
2. タンパク質間相互作用
- 3.

## ■ 研究課題

---

1. 細胞内カルシウムイオン動員機構
2. イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用

## ■ 担当授業科目

---

1. 生活の中の化学
2. 生化学 I
3. 生化学 II
4. 生化学実習
5. 人体の構造と機能基礎実習
6. 管理栄養士演習 I
7. 実践活動
- 8.
- 9.
- 10.

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

---

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- |    |   |
|----|---|
| 1. | 授業科目名【生活の中の化学】                                |
|    | • 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩 |

	<p>基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを目標の中心として講義を行った</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本科目、生化学 I および生化学 II をとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントの PDF ファイルを Classroom に提示し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた</li> </ul> <p>講義は、スライドを用いて行った。スライドには改訂を加えた。</p>
2.	<p>授業科目名【生化学 I】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生体分子の構造および化学的特性については、「生活の中の化学」で講義した内容や知識、言葉を用いて説明するように努めた</li> <li>• 代謝に関する講義では、代謝全般に共通する普遍的な原理・原則の理解と知識の習得に力点を置いた。「酸化還元」と「自由エネルギーの出入り」との結びつきの概念を特に強調した講義内容とした</li> <li>• 講義に用いるスライドにも改訂を加えて使用した</li> <li>• 講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントに改訂を加えて配布した</li> <li>• 講義中に話した内容に関する質問を行い、理解度の把握に努めた</li> </ul> <p>学生には暗記よりも論理的に思考して理解することを要求し続けた。試験も基本的には理解を問う問題を出題した。ただし、基本的な生体化合物の構造式については試験にも出題した</p>
3.	<p>授業科目名【生化学 II】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学 I」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。</li> <li>• 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した</li> <li>• 生化学 I で配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。</li> <li>• 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた</li> </ul> <p>講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた</p>
4.	<p>授業科目名【人体の構造と機能総合実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本科目は岡部教授とのオムニバス科目であり、15 回中 5 回を担当した</li> <li>• 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学 I (後期に開講)で学ぶ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした</li> <li>• 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした</li> <li>• 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた</li> </ul> <p>レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した</p>
5.	<p>授業科目名【生化学実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実験を通じて「事実(データ)を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた</li> <li>• 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした</li> <li>• 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てら</li> </ul>

	れるように指導した
	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した</li> </ul>
6.	<b>授業科目名【管理栄養士演習 I】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本科目は、複数の教員によるオムニバス科目であり、15 回中 2 回担当した</li> <li>生化学 I および II で履修した範囲を主に講義と国試過去問等の練習問題を組み合わせた授業内容にした</li> <li>生化学 I および II では取り扱わなかったトピックとして、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った</li> <li>練習問題は国試や模試の過去問とオリジナルに作成したもの組み合わせたものにした</li> </ul>

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1995 年 5 月～現在に至る	日本生化学会	
2.			
3.			

## ■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
<b>（著書）</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>（学術論文）</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>（翻訳）</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>（学会発表）</b>					
1.					
2.					
3.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究
----------

	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

## ■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

## ■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～現在に至る	大学キャンパスハラスメント防 止・対策委員会	
2.	2022年4月～現在に至る	学生個人情報保護委員会	委員長(2023年度)
3.			